

K U M A M O T O A R T P O L I S N E W S

CONTENTS

完成プロジェクト

熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設
エバーフィールド木材加工場

モク活シンポジウム2023

令和2年7月豪雨 被災した公民館に替わる「みんなの家」

人吉市のみんなの家
八代市のみんなの家
球磨村のみんなの家

熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

進行中プロジェクト

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発
芦北町湯浦地区地域優良賃貸住宅
高橋酒造 田野蒸留所・地域交流施設

TOPICS

Vol. **49**
2024.3

2023. 7. 15 sat

熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設(KIOKU) 完成記念シンポジウム

開催場所

ナースパワーアリーナ 大ホール

第1部 講演

大西 麻貴 百田 有希(o+h/設計者)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト 大西麻貴 百田有希(o+h)

伊東 豊雄 (KAPコミッショナー)

桂 英昭 (KAPアドバイザー)

末廣 香織 (KAPアドバイザー)

曾我部 昌史 (KAPアドバイザー)



幅広い考察を重ね、さまざまな人を巻き込んだプロジェクト

平成28年熊本地震から得られた教訓等を伝承し、県民及び来訪者の防災意識の醸成を図ることを目的に、「熊本地震震災ミュージアム 体験・展示施設」がくまもとアートポリス113番目のプロジェクトとして完成した。施設の完成を記念して2023年7月15日(土)に、シンポジウムと完成見学会を開催し、シンポジウムは約250名、完成見学会は約200名の参加者が、県内外から集まった。

シンポジウムでは、最初に、設計者のo+hの大西麻貴氏、百田有希氏から、初めて関わった公共プロジェクト「地層のフォリー(福岡県)」、昨年に完成し2023年度の日本建築学会賞を受賞した「シェルターインクルーシブプレイス コパル(山形県)」、「愛される建築」をテーマに展示されている「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館(イタリア)」、そして、今回の「熊本地震震災ミュージアム」について、写真で紹介しながら丁寧に説明された。

その後、大西麻貴氏、百田有希氏、伊東豊雄コミッショナー、桂英昭・末廣香織・曾我部昌史アドバイザーによる、パネルディスカッションが行われた。

曾我部アドバイザーが進行役となり、末廣

アドバイザーから「ワークショップなどでの色々な仕掛けづくり」について、桂アドバイザーから、「タイル仕上げとなった屋根の美しさ」について質問されました。そして、施工者の現場代理人の橋本氏から「楽しい建物に携われて良かった」と感想を述べられ、構造設計者の平岩氏から「高い耐震性をクリアするため構造計画を検討した」、設計共同体の産総設計の南氏から「コロナ禍の設計打合せの難しさを感じた」との話があった。

最後に、伊東コミッショナーから、「ワークショップのやり方、建築の作られ方、施工の仕方を含めて素晴らしく、ミュージアムは、新しい時代の建築が生まれた印象を受けた」とコメントがあった。



参加者 Comment

竹中工務店 大阪本店
浮田 長志さん

現代の日本のトップランナーの仕事を見たいと思い参加しました。建築を生業にしている自分自身も、愛される建築物をつくりたいと再確認できたシンポジウムでした。さまざまな視点を感じ、環境のことなど考えさせられました。

ワークショップに関わってきて、プロジェクトの完成まで見届けることができ、貴重な経験ができました。シンポジウムでは、批判性や社会性の議論がされましたが、建築に関わっていく身として考えていきたいテーマが多くありました。

熊本大学大学院 修士課程1年
今村 孔輝さん熊本大学 大学院 修士課程1年
丸野 健太郎さん

シンポジウムでは、建築業界の時代を築いてきた人たちの言葉がとても重く、考えさせるシーンがありました。建築業界に入っていく自分としては、今回の議論を咀嚼して、自分なりに解釈する時間が必要だと思いました。

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→→



設計者による解説付き 見学会を開催しました



参加者 Comment

設計関係 船津 明さん・江上 史恭さん



もともと建築物は自然に対して異物ですが、阿蘇の風景にとけ込んでいる感じがしました。外部の環境を活かした内部デザインが素晴らしいと感じました。素材がすべてオリジナルなのは驚きです。

福岡大学 工学部4年 北代 沙季さん・赤松 里恵さん



周辺環境との調和を大事にしていることを建築家から聞いた上で見学できたのがよかった。コンクリートの色味、さわり心地、素材感がとても印象的。KAPだからこそできる建築物だと思いました。

2023.10.31 tue

エバーフィールド 木材加工場 完成見学会

開催場所

エバーフィールドベース(上益城郡甲佐町)

講演

小川 次郎 (アトリエ・シムサ/設計者)

山田 憲明 (山田憲明構造設計事務所/構造設計)

協力

株式会社エバーフィールド

まるで生きもののような建築 新しい木造空間の 完成見学会を開催

設計のスタートからコロナ禍とともに丸4年の歳月がかかった一大プロジェクトが完成。プロポーザルでは一番実現が難しいと評価されていた設計だったが、「アートポリスは挑戦」という言葉に後押しされたことと事業者であり施工者の久原英司社長から話があった。熊本県産の小国杉を使い、小中断面で材長4m以下の製材が互いにもたれかけるように支え合う「木造レシプロカル構造」により、これま

でに見たことのない新しい木造空間が実現された。プロジェクトの開始からモックアップの見学会と、施工現場見学会が行われた。先進的な取組から業界でも注目を集めていた施設の完成見学会には、150名の参加があった。「できるだけやわらかく、有機的な建物にしたかった」という小川次郎氏と山田憲明氏の言葉どおり随所に材料が“生きています”ような意匠に、見学者から驚きの声ももれていた。



施工の要点を説明する現場責任者の田上勇氏

2023.12.23 sat 関係者による落成式が開催されました



設計者 Comment



小川 次郎氏(左):長い時間がかかったが、他に類のない、とても良いものが出来たと思っている。

山田 憲明氏(右):施工者や施主に助けられながら世界でここにしかない建物が出来上がった。スーパーゼネコンでは真似できないものである。

事業者・施工者 Comment



株式会社エバーフィールド
久原 英司氏

この木材加工場は、地場工務店でしかできない仕事だと思っており、我々のシンボリックな存在になる。

参加者 Comment

産鉦設計 石山 未来さん



木組を大胆にむき出しにし、複雑な組み合わせのように見えて、トラスの単純な組み合わせになっている。写真ではわからないことが現場で見ることができた。

九州大学大学院 修士課程2年 林田 章吾さん

圧倒的なレシプロカル構造で、建物全体で使われているのは初めて見ました。アートポリス、県産材の豊かさなど、熊本だからこそできる建築だと思います。とても勉強になりました。



Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



2023. 10. 28 sat

モク活 シンポジウム 2023

開催場所 熊本県庁地下大会議室
主催 熊本県 (林業振興課、建築課)

「もっとしりたい」

シンポジウム

第1部 事例発表

事例紹介の資料↓

① 国産材と外材の現状 について



白橋 祐二
建築食堂

中島 洋
銘建工業

② 「もっとしりたい」 熊本県の木材流通とJAS製材品



真道 吉広
ジメント

白石 俊之
くまもと県産材SCM協同組合

③ 木材プレカットの 現状と課題



林田 直樹
林田直樹建築デザイン事務所

内布 幸一郎
田中材木店

④ 木材流通経路の 現状と可能性



堀川 恵巳子
堀川建築・造形計画

佐藤 圭一郎
肥後木材

⑤ 地域木材の利用促進



三舛 正順
南小国町地域おこし協力隊

穴井 俊輔
穴井木材工場



事例発表以外の プレゼンター



國武 智仁
熊本県林業研究グループ連絡協議会



上野 瑞樹
セルアーキテクト



楠元 彰蔵
甲斐構造設計事務所



佐藤 俊輔
パオプラン熊本

第2部 ディスカッション

コーディネーター



原田 展幸
ライフジャム

コメンテーター



桂 英昭
KAPアドバイザー

くまもとアートポリスでは、県内の建築関係者と林業関係者が一緒になって、県産材の利用促進のため、木造建築物の魅力を発信する取組みを「モク活」と位置づけ、昨年度「木材利活用の可能性や熊本の木材供給に求めるもの」をテーマにシンポジウムを開催した。熊本の建築家が地域の木材についてもっと知ってもらい、熊本の木材のことを知る建築家を増やし地元産業に貢献していくことが大切であることが確認されたことから、2023年は、「もっとしりたい」をテーマに、第1部では5組10名による具体的な事例を発表した。事例発表以外にも建築業界、林業から4名のプレゼンターによるそれぞれの活動や取り組みについて発表。また、第2部では1部で発表された事例をもとに、14名のプレゼンターに加え、コーディネーター、コメンテーターを交えたディスカッションが行われた。会場には建築を学ぶ高校生をはじめ、大学生、県内外の業界関係者、行政関係者など約150名が集まった。

第1部では、建築関係者と林業関係者がタッグを組み、取り組みを進めている

県産材の利活用の可能性を探る



プロジェクトや課題についてプレゼンテーションが行われた。木材資源の利活用としての地域型バイオマス、川上（植林、造林など）、川中（製材加工など）、川下（設計、木工加工など）をつなげ、連携する仕組みづくりや、プレカットを利用した災害時の木材ローリングストック、木材流通の“見える化”、小国杉流通のための家具開発、加工品の提案と、多方面からアプローチする木材利活用のプロジェクトが紹介された。プレゼンターの説明資料は、事前に公開し、当日のディスカッションの参考のため、参加者からの意見を募集した。（事例紹介の説明資料は熊本県ホームページにて掲載）また、事例発表以外の4名のプレゼンターからは、自身の取り組みや、林業に対する思いについて発表された。

第2部では、県産材利活用の可能性を探る、熱い議論が繰り広げられた。建築関係者が知りたい林業の実情など、深掘りしながら進められた。議論の中では、国産材と外材の利用について、価格面や物量だけでなく、国産材だからできることを模索することが求められるなど、林業サイドから貴重な意見が出た。また、資源の問題に加え、人材の不足、カーボンオフセット、木材のローリングストック、川上から川下までのワンストップサービス、異業種との連携など、多方面の切り口で議論が交わされた。中でも印象的だったのは、林業や建築業界に関わらず「仕事のモチベーション、やりがい」をどう育てるかの意見の交換が行われた場面だった。桂アドバイザーからは、「技術と文化、災害まで考慮に入れた木材の価値について、バラエティに富んだ話し合いで、おもしろい議論ができた。木材の価値の発信には、林業や建築業界に携わる発信者の強い意志と思いが大事だ。」と締めくくられた。これからも、建築関係者と林業関係者が一緒になって、木造建築物の魅力を発信していきたい。

参加者 Comment



幸の国木材工業
村木 勇一さん

昨年度はコメンテーターとして参加しましたが、改めて若い人材を大事にして、モチベーションを保てるような産業にしたいと思いました。人と機械とAIロボットの組み合わせで、人材不足と安全面を確保できるよう考えていきたい。

熊本工業高校 建築科2年
浅野 百絵さん

木造の建築物に興味があったけれど、林業のことを意識していませんでした。今回のシンポジウム参加が考えるきっかけになりました。すごく好きなことをやっている人には勝てない、というコメントが印象的でした。



甲斐構造設計事務所
内田 成伊也さん

木造の構造を経験したことがなかったなので、興味深く話を伺いました。原材料として国産が予想よりも少なく、今後国産材を使うことを重点的に考えるべきだと思いました。今後は木造にもチャレンジしてみたいと思うシンポジウムでした。

Check!

シンポジウムの詳細はこちらをチェック→



令和2年7月豪雨 被災した公民館に替わる「みんなの家」

日本財団と、熊本県建築住宅センターの支援を受け、被災した公民館を「みんなの家」として再建するプロジェクト。2024年度は、全9棟のうち人吉市、八代市、球磨村で計7棟が完成。建設にあたり、KASEIも協力し、住民との意見交換をし、施工中に塗装ワークショップや、上棟式を開催するなど、住民と一緒にやっていった。

事業概要

事業主体/一般財団法人熊本県建築住宅センター
 協働事業者・資金助成/日本財団
 事業協力/一般社団法人KKN熊本工務店ネットワーク



完成式にはくまモンも駆けつけてお祝い!

人吉市のみんなの家

人吉のみんなの家は、再度の水害の可能性を意識しつつ、高齢者の利用を考慮して床の高さを低くする代わりに、ある程度の浸水被害にも対応できるよう、建物の周りのコンクリートの立ち上がりを少し高くと、「お椀」型。

屋根は青井阿蘇神社をはじめ人吉各地にある「お堂」をヒントに、お堂のような公共性と求心力を感じさせるかたちとした。寄棟の屋根は、どの方向からも人を招き入れるような正面性を持ち、屋内に入ると奥行きを感じる空間となっている。4つの地区それぞれで大切にしていることがあることを意識し、敷地の特徴や使い方に合わせ大きさやプランを変化させた、みんなの家となった。

地区のみなさんと一緒につくる



設計時の意見交換会では、KASEIの協力のもと設計者、地区のみなさんがみんなの家をどう使いたいか、どんな空間がほしいか要望され、プランが変更された。



起工式や上棟式

上棟をお祝いする餅投げでは地区がお手製のカレーをふるまうなど、みんなの家をきっかけに地区の皆さんが集まっていた。



大活躍のKASEI



KASEIは意見交換会だけでなく、住民の意見を取り入れながらベンチを制作し、地区の方がまた遊びに来てほしいと歓談されている様子が印象的だった。

地区の声 温泉町 美濃 邦さん



令和2年7月豪雨の被災直後から、区長さんとともに地区の復興・復興に尽力されたおひとり。「自宅の再建よりも、みんなの家をつくることを優先した。被災前は会合で集まらなかった若い方も、みんなの家の建設をきっかけに集まるようになり、顔の見える関係になった。気軽に集まることができる場所は、心のよりどころになっている。これからはたくさん使っていききたい」と語った。

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



設計者 Comment



乾 久美子氏: 車椅子でも使える低床型でありながら、基礎を立ち上げ玄関で土嚢や止水板をすることで水をせき止められる設計となっている。勾配のついた大きな寄棟の屋根は、人が集まる姿を象徴させている。これからみんなの家が地区にとって、便利で毎日使いたくなるような楽しい施設となることを願っている。

KASEI プロジェクト

みんなの家へのベンチ贈呈



KASEI.r2コンペティションにより学生や地区の皆さんが製作したベンチが、9月23日「宝来町のみんなの家」で、9月24日に「藤本・大門のみんなの家」「中津道のみんなの家」で、12月10日に「温泉町のみんなの家」で贈呈された。



Check!

KASEIプロジェクト詳細はこちらをチェック→
 (KASEI.r2 ホームページ)





温泉町のみんなの家

温泉町の祝幸江会長は、「完成してほっとしている。今まで公民館が老人センターしかなかったので、みんなで気軽に集まれる場所がなかった。これから楽しみがたかさんです」と語った。



宝来町のみんなの家

宝来町の内布亨会長は、工事中の現場に何度も訪れていただき、ご意見をいただいた。「これまで開催してきた地区の祭りができるのが楽しみ」とコメントした。



大工町・二日町のみんなの家

大工町と二日町は、公民館の再建をきっかけに、2地区で意見交換会から完成まで進めてきた。大工町の郡山繁治会長、二日町の清田敏文会長は、「2地区が一緒になって、このみんなの家を使っていきたい」と語った。



下新町・上新町のみんなの家

下新町の家城正信会長は「豪雨で大きな被害を受けたこの地に、みんなの家を整備していただきとても感謝している。みんなで使っていきたい」とコメントした。



熊本地震仮設住宅団地の「みんなの家」をあらたなコミュニティ形成の場に 熊本地震「みんなの家」利活用プロジェクト

令和2年7月豪雨仮設住宅団地の「みんなの家」においても、仮設住宅解体後の活用が見込まれる。

Check!
プロジェクトの詳細は
こちらをチェック→→



益城町 いちのしろ 市ノ後公民館

みんなの家2棟を移築・合築し、市ノ後公民館として活用された。村上区長は「今後も集会や健康教室などで使っていきたい」とコメントした。



益城町 津森小学校児童クラブ

益城町木山団地のみんなの家2棟を移築・合築し、児童クラブとして活用。児童支援員の西山氏は、景色が良く児童がベランダや外でよく遊んでいる。快適な空間に皆が喜んでるとコメントした。



八代市のみんなの家

八代市のみんなの家は、180mm角の柱が立ち上がり、そこに軒の深い、周辺の風景と呼応するような勾配をもった屋根が乗る。誰もが自然にみんなの家に寄っていく、自然とともにあるみんなの家が設計された。

内部に入ると、2段組みの勾配屋根を支える架構が見え、トップライトやハイサイドから自然光が降り注ぎ、3方向に開かれた水平窓は中に座ると豊かな周辺の風景をどこからでも享受できる。

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



設計者 Comment



柳澤潤氏:両地区ともに、山々に囲まれた素晴らしい環境にみんなが集まりやすい場所を計画した。勾配が急な屋根と緩い軒の組み合わせにより、①人をむかえやすい形、②360度の素晴らしい風景を屋内からも楽しめること、③安定した形の3つのコンセプトを進めてきた。多くの方々に協力いただき、完成することが出来た。

起工式



4月15日に関係者による起工式が開催された。大門地区の田川正夫会長は「日本財団をはじめ、関係者の皆様のご支援で公民館を再建することができる。憩いの場として活用したい」と話した。(藤本・大門)

上棟式



小学校の敷地にあった既存のサクラ並木が満開の時期に行われた上棟式。大勢の方が集まるなか、地域の方による餅まきが行われた。(中津道)



7月1日に上棟式を開催。(藤本・大門)

落成式・KASEI ベンチ贈呈式



9月24日に関係者による落成式とKASEIによるベンチ贈呈式が開催された。(藤本・大門)



落成式



7月1日に関係者と地区住民による落成式が開催された。(中津道)

GO! くまモン★ナビ



県政テレビ「GO!くまモン★ナビ」で、くまもとアートポリスの取り組みとして「中津道のみんなの家」が紹介された。

球磨村のみんなの家

球磨村のみんなの家は、2024年に渡のみんなの家が完成した。特徴は、①隣地に公園がある立地環境を考慮し開口部を多く設ける、②地域でよくみられる入母屋を原型にし高窓からの光を取り入れる、③壁の多い部屋を広間の周囲に配置し地震や風など横からの力を受け止めるの3つ。村内で人口が多く、大人数が集まりたいとの要望で中心の部屋を広くしたプランとなった。隣接する公園から出入りできるようキッチンにも勝手口があり、外部に水栓や濡れ縁を設けるなど配慮がされている。

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



「渡のみんなの家」落成式



2月4日に関係者による落成式があり、外壁の塗装に協力した山口地区の皆さんも参加し、くまモンと一緒にみんなの家の完成を祝った。

起工式



5月27日の起工式には住民30名が参加し、完成を心待ちに。



山口地区の岡潤一郎班長は、「細かいところまで気を使ってもらい、願った以上の解放感と木の温もりを感じられる空間で、住民の皆さんも喜びと誇り」と語った。



藤本・大門のみんなの家

おおかど
大門の田川正男会長(写真右)は「みんなの家」に灯りがともり地域が明るくなると期待しています。皆の声がかよますみんなの家になりたいです」とコメントした。藤本の上村宏美会長(写真左)は「これから地区の皆で大切にしていきたい」とコメントした。



中津道のみんなの家

三坂の蓑田陽一会長(写真左)は「旧中津道小学校があったこの地にみんなの家を整備していただき感謝しています。これからみんなで使っていきたいです」とコメントした。中津道の山口芳幸会長(写真右)は「太い柱や3方向に開かれた大きな窓、軒が深い大きな屋根は気に入っています。屋間は照明がなくても明るい。毎月いきいきサロンなどで使っていて、今後はカラオケでも使いたいです」とコメントした。



上棟式・餅投げ



9月30日には、地区の皆さんと関係者が餅投げで上棟をお祝いました。

外壁材の塗装WS



10月15日、20名の住民の皆さん、KASEIの学生と一緒に外壁材を塗装した。



「神瀬のみんなの家」は2024年度、「中園のみんなの家」は2025年度の完成が予定されている。

On going

南阿蘇鉄道高森駅 周辺再開発

高森町は、創造的復興の一環として、「定住」「観光」「防災」をキーワードに南阿蘇鉄道の始発・終発点である高森駅と駅周辺の整備に取り組んでいる。

2023年7月15日の南阿蘇全線運転再開に向け、同年4月28日に先行して南阿蘇鉄道高森駅の新駅舎落成式が開催された。

2024年夏の全面完成に向けて、交流棟・回廊・交流広場の工事が進められており、設計者が目指した「とにかく広いプラットホーム」が形になる。

事業概要

事業主体 / 高森町
 設計者 / 太田浩史(株式会社ヌーブ)
 延べ面積 / 駅舎 約520㎡ 防災交流施設等 約260㎡
 構造・階数 / 木造・地上2階

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



現場見学会を開催!

本プロジェクトでは、県内の工業高校生や熊本県内の建築関係者や林業関係者を対象に、完成した新駅舎と工事中の交流棟の現場見学会を複数回開催。

見学会では、設計を担当したヌーブ 石島健史氏から本施設の設計コンセプトや、設計事務所の業務内容について紹介され、施工者の竹内工務店 岩元政貴氏からはモノづくりの楽しさや、建設業の魅力が伝えられた。



On going

芦北町湯浦地区地域優良賃貸住宅

芦北町は、令和2年7月豪雨災害で被災された芦北町民や、移住希望者が安全安心を実感できる住環境を整備し、次世代に繋いでいく施設として、公営住宅を整備している。

「広いハラっぱ、緑の中庭」で暮らしを守り、つくる」をコンセプトに、日常の生活では、子どもが伸び伸び遊べる中庭、温泉の町である芦北町の持ち味を生かした足湯、各住戸には薪ストーブなど、芦北町でしか住めない「オンリーワンの公営住宅」だ。また、非常時には浸水対策として垂直方向に避難できるデッキや、隣接する山や川の災害リスクを少なくするため、配置も工夫されている。

事業概要

事業主体 / 芦北町 設計者 / 片山和俊+龍口元哉+太宏設計事務所
 延べ面積 / 約1470㎡ 構造・階数 / 木造・2階



設計者 Comment



左から、龍口元哉氏、片山和俊氏、太宏設計日高由美子氏、同社福田達也氏

片山氏 火を焚いて暮らすのは楽しい。生活の中に薪ストーブがあることで、若い世代に町の魅力をより伝えることができると思い、提案した。

龍口氏 日常的な生活は崩さずに災害に備えられる住宅、在宅避難ができる住宅を目指した。間伐材を利用し、災害時に使える薪ストーブを各住戸に設置した。

Check!

プロジェクトの詳細はこちらをチェック→



2024.3.5 sun

地元小学生塗装ワークショップ

地元の湯浦小学校5年生が塗装ワークショップを体験。当日は、設計者の片山氏、龍口氏から、住宅の計画、施工者の松島建設村崎氏から工事について説明。職人から塗装の方法や、塗料の種類について学んだ。



On going

高橋酒造 田野蒸留所・ 地域交流施設

球磨焼酎で全国的に知られる高橋酒造株式会社は、「お酒は単に酔うための液体ではなく、文化である。お酒を造る蒸留所についても、文化的や芸術的なものである必要がある。」という思いから、アートポリス事業に参加された。

町の過疎化により廃校となった築34年の旧田野小学校校舎と体育館を蒸留所と地域交流施設に再生し活用する。

設計者が赤い屋根という「物質的記憶」、小学校らしさが感じられる「郷愁的記憶」、そして周囲に広がる田野高原の自然や環境を生かすことによる「地域的記憶」の3つの記憶を持つ建物を目指した。2024年の夏にいよいよ完成する。



事業概要

建設地 / 人吉市田野町3316-4
 事業主体 / 高橋酒造株式会社
 改修規模 / 約1,300㎡(増築約400㎡)
 1階:約850㎡、2階約450㎡
 事業内容 / 旧田野小学校校舎等を蒸留所、
 地域交流施設に改修

Check!

プロジェクトの詳細は
 こちらをチェック→



2024.3.7 thu

関係者による上棟式を開催



高橋酒造 Comment



高橋酒造株式会社
 代表取締役社長 高橋 光宏氏
 豊かな自然や水がある田野地区の、廃校を改修した建物でウィスキーが製造できることを最大限に生かしたい。

2023.12.9 sat

現場見学と地元住民参加型ワークショップを開催

大規模リノベーション中の廃校内部を公開！
 和やかな雰囲気の中、旧田野小学校の校歌の木板を塗装するワークショップを開催した。



参加者 Comment



田野町町内会町 元田 芳照さん
 赤い屋根など田野小学校らしさを生かした改修により数十年先にもこの風景を残してもらえることを、とても嬉しく思います。国外からの来客も望める田野蒸留所の完成は地域にとっての光です。蒸留所への訪問を通して田野町の良さも知ってもらいたいです。3年後の完成が楽しみです。



田野小学校卒業生 元田 麻文さん
 今回の現場見学で屋根裏を初めて見て、こんなに立派な建物で学んでいたのだと知りました。木板に書かれた校歌の歌詞は、私が小学1年生の頃に地域の方が考えてくれたものです。住民がずいぶん減ってしまった今、校舎を生かす形で残してもらえるのは嬉しいお話です。

2023.12.7 thu

小川工業高校現場見学会

2023年12月7日に、建築を学ぶ小川工業高校2年生を対象とした現場見学会を開催。設計者であるyHa architectsの平瀬祐子氏が模型を使って、廃校になった校舎や体育館をリノベーションする際の構造的な考え方などを説明され、速永工務店の黒木浩行氏や藤岡孟之氏が、改修工事の施工手順を説明した。



第27回 くまもとアートポリス推進賞 受賞作品決定！

建築文化に関する関心を高めるために
行っているアートポリス推進賞。1995年
からこれまで、185件の作品を表彰してき
た。2023年度の推進賞には、33件の応募
があり、平成28年熊本地震や令和2年7月
豪雨からの創造的復興が契機となった施
設など多彩な8作品が選ばれ、2024年1
月26日に表彰式が開催された。



詳細はこちら

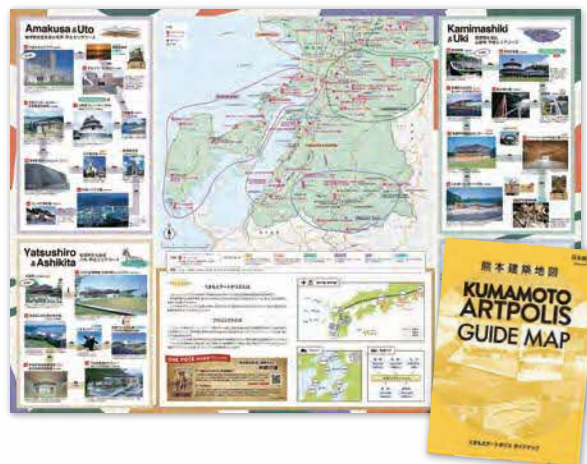


ガイドマップ等を リニューアル！

インバウンド需要等に対応するため、
アートポリスプロジェクト施設と県内
の観光施設を織り交ぜた4か国語(日
本語、英語、韓国語、中国語)ガイド
マップ及び、4か国語に対応したPR動
画が完成した。



詳細はこちら



国内外からの視察見学者が急増！

アフターコロナとなり、2023年度は新型コロナウイルス感染
前の2019年の440名を大きく上回り、580名の学生や建築
団体を受け入れた。



熊本中央警察署
5/10光州広域市東区職員(韓国)



エバーフィールド木材加工場
3/6芝浦工業大学(東京都)

中高生に建築の面白さを伝える

宇土高校で開催された県内の中高一貫校(宇土、玉名、八
代)の中学生を対象にした公開授業で、アートポリスの取組
みを紹介するPRブースを設置。当日は、中学3年生の生徒と
その保護者、宇土高校の3年生が来場。プロジェクトの模型
やパネルを興味深く見学した。



くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

発行 くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築住宅局建築課内

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
TEL.096-333-2537 FAX.096-384-9820
e-mail kenchiku@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



facebook



twitter



instagram



Pinterest



YouTube

発行者：熊本県
所属：建築課
発行年度：令和5年度
(2023年度)